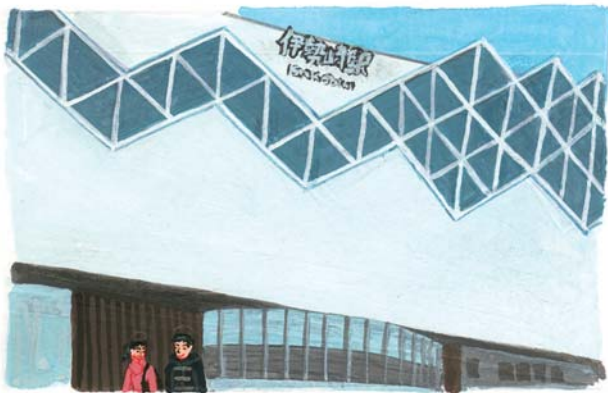


懐かしい
絹織物の街にも
新しい息吹



こんにちは、あずまです。今回は健一さんと伊勢崎へ行ってきました。この美しい建物は「いせさき明治館」(黒羽根内科医院旧館)。木造洋風医院建築という様式で、1912(明治45)年に建てられたもの。去年は創建100年の式典が行われたそうです。(MAPのⒶ)

今回の登場人物

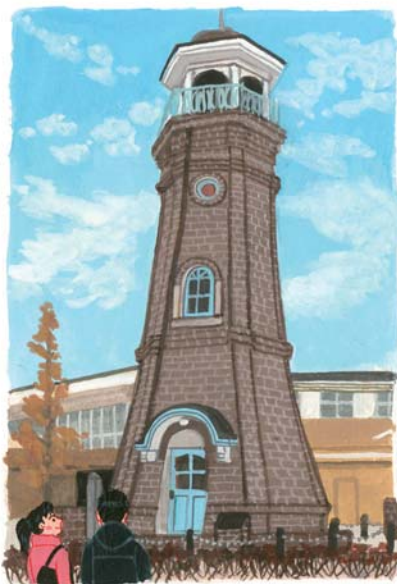


伊勢崎線の終点「伊勢崎駅」。1910(明治43)年に開業。JR両毛線への乗り換え駅にもなっています。昨年10月の伊勢崎線高架橋の完成に伴い、新駅舎も完成。現在南口駅前広場を整備する工事が行われています。

伊勢崎・
新伊勢崎

(いせさき・しんいせさき)

「伊勢崎」と「新伊勢崎」。この隣り合う駅は、高架化に伴って新しい駅舎に生まれ変わったばかり。周囲に広がる街にも、新しい時代の1ページが開かれようとしています。ここは400年以上の歴史をもつ昔の城下町。近代に入ってから、あの美しい絹織物「伊勢崎銘仙」の産地として、あまりにも有名になりました。そうした文化の香りを発見しながら、小さな旅を試みましょう。華蔵寺公園遊園地など、今風なお楽しみスポットにも乞うご期待。



北小学校正門脇に建つ「旧時報鐘楼」。群馬県で最古の鉄筋コンクリート造の建造物だそうです。1915(大正4)年に建てられたもので、赤煉瓦の外観やドーム屋根が素敵です。ここに通う小学生が羨ましいですね。(MAPの㉔)



戦国時代から江戸時代初期に活躍した武将で、伊勢崎藩主だった稲垣長茂の屋敷門と伝えられる「同聚院の武家門」です。ここでは15世紀後半、室町時代の石幢(石塔の一種)や、樹齢600年という大カヤも見られます。(MAPの㉕)



1213(建保元)年創建といわれる「伊勢崎神社」です。百人みこしが繰り出す、8月の「いせさきまつり」が知られています。社殿の彫刻も見事です。昨年秋の「いせさき燈華会」では、ジャズの演奏会が催されたそうですよ。(MAPの㉖)



「いせさき明治館」に入ると、見事な伊勢崎銘仙の数々が迎えてくれました。2月16日までには「アバンギャルド・銘仙展」、2月22日から3月30日までには「至宝の銘仙展」も開催。建物の内装の素晴らしさにも驚かされました。(MAPの㉗)

「武家門通り」を歩いて 伊勢崎の歴史をたどってみる。

すっかり立派になったと評判の「伊勢崎駅」を降り、南口の駅前広場に出てみると、すぐ右側に見えるのが「武家門通り」の標識です。一見、ごく普通の住宅街の中ですが、実はこの道が、伊勢崎の歴史散策の入口ともいえます。

まず、歩く間もなく出会うのが、あたりを圧するように建つ、重厚な「同聚院の武家門」です。これは1601年、伊勢崎藩の初代藩主となった武将・稲垣長茂の屋敷門だったとか。一般の山門とは異なり、瓦葺きの切妻造りという注目すべき存在です。同聚院そのものの創建は、12世紀と古く、広々とした境内は奥が深い。由緒ある史跡が点在しますから、忘れずに観てみましょう。

こうした伊勢崎の成り立ちを物語る風景と隣接して、近くには近代を象徴する「旧時報鐘楼」もありました。かつては鐘の音を響かせ、町中に時刻を告げた高い鐘楼は1915(大正4)年の建立。群馬県で最古の鉄筋コンクリート造りです。もちろん現在は使われていませんが、いまでも美しい赤煉瓦の外装や丸窓のステンドグラスなど、当時の人々の西欧文化への憧れやロマンを偲ばせます。

その向かいにある建物は「伊勢崎織物会館」。時代が江戸から明治に入ると、伊勢崎は「伊勢崎銘仙」の故郷として、日本のファッション産業を華やかに彩り始めます。銘仙とは、日常の「おしゃれ着」に欠かせなかった絹織物(紘)。伊勢崎では、古くから養蚕が盛んだったことや培われた伝統技術を駆使して、大輪の着物文化が開花しました。



ランチで入ったのは「千曲庵」というお店。おっきりこみ(煮ぼうとう)という群馬県の郷土料理をいただきました。幅広のうどんに野菜がたっぷり。寒い冬にはありがたい料理です。ボリュームもすごかったです。(MAPの㊦)



旅行の締めは、「いせさきもんじゃ」。その特徴は、具が少なくてチーフ(本当に安い!)であることだそうです。いちごシロップ入りは「アマ」で、カレー粉入りは「カラ」。トッピングの定番はダビースターラーメンです!



国指定重要文化財の埴輪4点が観られる「相川考古館」へやって来ました。この建物は、茶室の「鶴華庵」です。展示室では、投扇興の遊びも楽しめますよ。土日はミュージアムショップで、焼きたてパンの販売も!(MAPの㊧)



伊勢崎駅北口からバスに乗って、「華蔵寺公園遊園地」にスクに行ってきました。街のシンボリックな存在の大観覧車「ひまわり」や、ジェットコースターを満喫してきました。園内には可愛い豆汽車も走っていましたよ。(MAPの㊨)

和モダンを彩った銘仙は いまもステキ!

伊勢崎銘仙を鑑賞するなら、「いせさき明治館」を訪れてみましょう。すてきな木造洋風医院建築は、100年も前に建てられた黒羽根内科医院旧館(旧今村医院)を引き家移転したものです。外観と内装と一見に値しますが、館内は、四季折々の伊勢崎銘仙を展示するプチ・ミュージアムになっているのです。特に2月は「アバンギャルド・銘仙展」や「至宝の銘仙展Ⅱ」が開催され、その伝統美や驚くほどモダンなデザイン感覚には、次代への新しい可能性も見えてきます。

さらに、道は「伊勢崎神社」へと続きます。鎌倉時代に創建され、代々の領主から守護神として崇敬されたという社は、やはりパワースポット。本殿を彩る精緻を極めた彫刻に、しばし時を忘れて憩いましょう。また、ちよつと寄り道するとある「相川考古館」がまた必見です。江戸時代に町役人を務めた家の歴史的建造物です。茶室は県指定の重要文化財です。同時に相川之賀翁が収集した考古資料は学術的にも評価され、中でも4点の埴輪像は国指定の重要文化財になっています。

ところで、TVアニメ化されている人気マンガ『日常』をご存じですか? その舞台となったのが伊勢崎駅北口と「華蔵寺公園遊園地」に囲まれた一帯。近頃は、主人公たちの世界を見ようと訪れる若いファンも増えました。この華蔵寺の杜を基点に開けた遊園地は、おすすめのお楽しみスポットです。入園は無料でアトラクションは多彩。大型観覧車から望む、裾野は長し赤城山の姿も、伊勢崎ならではの景観です。

伊勢崎・新伊勢崎データファイル

〈いせさき明治館〉・・・●交通=伊勢崎駅徒歩7分 ●開館時間=10:00～17:00 ●休館日=月・火曜(祝日の場合は開館) ●入館料=無料
 ●「アバンギャルド・銘仙展」・・・2月16日(日)まで開催中 ●「至宝の銘仙展Ⅱ」・・・2月22日(土)～3月30日(日) *3月1日の「いせさき銘仙の日」では、北小学校体育館にてファッションショーを開催
 ☎0270-40-6885

〈相川考古館〉・・・●交通=新伊勢崎駅徒歩10分、伊勢崎駅徒歩12分
 ●開館時間=9:30～16:30(入館は16:00まで) ●休館日=月曜、年末年始(12/28～1/4) ●入館料=大人500円/小中学生200円
 ☎0270-25-0082

〈華蔵寺公園遊園地〉・・・●交通=伊勢崎駅北口からいせさきコミュニティバス「あおぞら」(無料)の「赤堀シャトルバス」で「華蔵寺公園東」下車
 ●開園時間=9:30～16:30(3月～11月は9:00～17:00) ●休園日=火曜(祝日の場合は開園)、年末年始(12/29～1/1) *4・8月は無休 ●入園料=無料 *のりものは別途(例/ジェットコースター 350円、大観覧車280円、サイクルモノレール140円、豆汽車70円ほか) ☎0270-25-4478

〈千曲庵〉・・・●交通=新伊勢崎駅徒歩6分 ●営業時間=11:00～14:30、17:00～20:00 ●休業日=月曜(祝日の場合は営業、翌日休業)
 *おっさりこみ970円 ☎0270-24-5690

※記載事項は変更になる場合がございます。



「相川考古館」では国指定重要文化財の埴輪4点が見られます。